

## 気付きの質を高める学習で潤いと元気を！

生活科では、新設当時から「気付き」を大切にしてきた。しかし、気付きを質的に高める指導が十分に行われていないことを受け、今回の小学校学習指導要領の改善では、『自分の特徴や可能性に気付き、自らの成長についての認識を深めたり、気付きをもとに考えたりすることなどのように、児童の気付きを質的に高めるよう改善を図る。その際、例えば、見付ける、比べる、たとえるなどの多様な学習活動の充実に配慮する。』と示された。活動や体験の中から生まれた児童の「気付き」の質の高まりを目指した授業改善が要請されている。

ここでいう児童の「気付きの質が高まる」とは、次の3つが考えられる。

- ①無自覚だった気付きが自覚された気付きへと高まること
- ②一人一人の気付きを皆で共有することで、関連付けられた気付きへと高まること
- ③対象に対する気付きを蓄積していく中で、自分自身への気付きへと高まること

そこで、一人一人の気付きを明確にし、より気付きを深め、次の活動や体験を一層充実したものにするため『振り返り活動を重視し、気付きの質を高める』ことを目指していきたい。

「気付き」は驚きや願いと絡み合うダイナミックな活動の中で生まれてくる。学習指導要領で示された「見付ける、比べる、たとえるなどの多様な学習活動」や「試行錯誤や繰り返す活動」も大切であり、ここでいう「振り返り」は、そのような「活動や体験」を取り入れていくことを前提として考えている。

気付きの質を高めるとは

気付きの質を高めるために

- [振り返り活動の位置付け]
- 活動の節目
  - 単元の終わり
  - 学年の終わり

・具体的な体験や活動  
 ・「見付ける・比べる・たとえる」などの多様な学習活動  
 ・試行錯誤や繰り返す活動

気付き

### 【気付きを表現する】

◎活動や体験したことを言葉や絵などによって振り返る場を設けることで無自覚だった気付きが自分の中で明確になったり、次への活動のめあてが生まれやすくなる。

また、児童が表現したものをもとに、教師が尋ね返したり、問い掛けたり、共感したりと対話することで、児童の気付きが言語化され、より気付きが明確になっていく。

### 【気付きを伝え合う】

◎互いに伝え合い交流する活動は、一人だけの気付きだったものを集団で共有し合うことができる。また、多様な気付きの交流が一人一人の気付きを質的に高めていくことになる。児童は、伝え合う中で自分の発見と友達の発見とを比べ、似ているところや違うところを見付けていく。

また、伝え合う相手を意識したり、相手からの称賛を得たりすることが学習意欲にもつながっていく。

### 【繰り返した振り返りをまとめる】

◎活動の節目で振り返り表現したものをまとめることによって、対象への気付きだけでなく、自分自身や自分の生活について新たな気付きをしていく。児童が、自分自身のよさや可能性に気付き、心身ともに健康でたくましい自己を形成していくことは、自立への基礎をはぐくむことにつながっていく。

## 気付きの質の高まり

「気付きの質を高める学び」により、意欲と自信をもって生活しようとする児童がはぐくまれていく。これは、本大会のテーマ「潤いと元気」で目指す児童の姿でもある。

# 授業における「気づきの質を高める学び」の指導と評価

＜実践例＞1年  
内容（1）  
学校と生活

気づきの表現  
（活動の  
振り返り）

気づきの共有  
（活動の節目  
の振り返り）

T = 教師  
S = 児童

自分自身への  
気づき  
（単元全体の  
振り返り）

## 単元名 「たのしいがっこう」

単元の目標：友達と一緒に遊んだり、学んだりしながら学校生活の楽しさを味わい、学校施設の様子や学校生活を支えている人々のことが分かり、安心して生活できる。

＜初めての学校探検後、探検を振り返ってかいたカードを使って、教師からの問い掛け＞

見つけた金魚への「誰がお世話をしているのかな？」という問い掛けに対し「豊島先生がお世話しているんだって、校長先生が教えてくれた。また、お話したい。」とうれしそうに報告に来た。これをきっかけに次の探検では積極的に校長先生と話をし、「校長先生の好きな色は水色、好きな花はバラ、好きな運動は剣道、本も好き。」とたくさんのことを聞き、カードにメモをしていた。



カードに表現された気づきをもとに教師が「誰が」等、問い掛けることでさらなる調べ活動が促され、次への活動へのめあてが生まれる。

＜4回目の学校探検後、グループで探検を振り返った話合いを使って＞

コンピューター室へ探検に行ったグループの児童が探検後、「おもしろいすがあったね。」「ぼくも自分で動かしてみたよ。」と教え合っていた。そこで、「教室と違ういす」について取り上げみんなで話合いを行った。

T：コンピューター室のいすがおもしろかったってお話していたけれど、どんないすですか？

S：自分で高さが変えられるんだよ。 S：ぼくもやってみた。すごく簡単だよ。

T：みんなのいすは高さを簡単に変えられないけれど、コンピューター室はどうしてそんないすなのかな。

S：みんなが使えるようにだよ。 S：6年生も使うし。

S：4年生のお兄ちゃんも使ったって言ってたよ。

T：そうか、学校みんなが使うから合わせやすいように高さが変えられるんだね。他に、教室と違ういすってあったかな。

S：図工室のいすは木のいすだったよ。 S：机の上に乗っていた。

S：きっと、お掃除しやすいようにだよ。

S：多目的室のいすは、青いカバーがついていた。 S：たためるいすだよ。

S：出したり、しまったりするからだよ。

S：校長室のいすは手を置くところがついていたよ。 S：ソファーもあったよ。

S：校長室のいすはゴージャスだ。 S：だって、校長先生は1番偉い人だもん。

S：きっと校長室で、お客さんをおもてなししているんだよ。

教師が、コンピューター室の椅子について詳しく尋ね、教室の椅子や他の椅子と比べるように促したり、どうしてそんな椅子かを問いかけたりすることによって、児童は、それぞれの椅子がその教室ごとにどんな機能を果たすようにしているかを考えることができた。児童の気付いたことの中から比較できる話題を取り上げ、児童の話合いを広げていくことで、気づきが深まっていく。

学校探検の最後に「家の人へ1番のお気に入りを見せてあげよう」と、児童にとって無理のない形で活動全体を振り返ることのできる場を設定した。

また「大好きな学校とどれくらい仲良しになれたかな。」という振り返りを同時に行い、単元を通して変わった自分を見つめることができるようにした。

左のカードの児童は、探検を通して友達が増えた自分を振り返っている。友達が一人もないことが不安でスタートした学校生活であったが、探検活動でいろいろなもの、人、友達とかかわり、安心して学校生活を送ることができるようになったということが「探検してよかったよ」という言葉に表れている。さらに、学校生活に前向きにかかわろうとしている姿を見ることもできる。

長期にわたる活動であっても、活動ごとに振り返り表現することを繰り返していくことで、児童自身が自分の成長を見つめ、自覚していくことができる。

